

「地域課題分野」（平成30年度採択）

事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
荒川中流域の支川群を対象とした貯留効果と生態的機能の評価に基づく植生管理手法の提案	埼玉大学 田中 規夫	A
<研究概要> 洪水時の水面形の時間変化特性を明確にするため、都幾川と越辺川でR1.10（台風19号）とR2.10（台風14号）の水位を縦断的に計測した。また、台風19号で堤防決壊または越流の痕跡があった地点と河道内植生の関係を比較した。治水面から伐採すべき植生は、堤防付近または低水路付近の低木、竹林であり、それらと生物の生息域の比較を示した。荒川流域全体の水位・流量時系列を解析するモデルを開発し、樹林化した河道における伐採などの対策が下流の本川区間・調節池に与える影響を明らかにした。		
<事後評価指摘事項> A評価のためコメントなし		

※評価基準

- A：研究目的は達成され、十分な研究成果があった。
- B：一定の研究成果があった。
- C：研究成果があったとはいえない。